

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

造形実技試験の解説

本学科では、一般選抜(後期日程)において造形実技試験を行っています。

- ・試験時間:120 分
- ・大学で用意するもの:デッサンボード(解答用) ほか
- ・受験生が用意するもの:黒鉛筆, 消しゴム, 羽根ぼうきまたはブラシ

造形実技では、以下の 5 項目について評価を行います。

- ・理解力:試験問題の指示内容を正しく理解できているか。
- ・構想力:明確な考えにもとづく解答が示されているか。
- ・創造性:ありきたりの解き方ではなく、創意工夫や独自性が作品に見られるか。
- ・構成力:構成が明快で審美性のある空間となっているか。
- ・表現力:質感や陰影の表現にすぐれているか。また、視点や視界の設定にすぐれているか。

過去に出題した問題の解答例をまじえながら、ポイントを解説します。

滋賀県立大学 入試情報	http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/nyushi/index.html
環境科学部	http://www.ses.usp.ac.jp/
環境建築デザイン学科	http://dda-usp.com/

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 31 年度一般選抜(後期)試験

【問題】「集合知」に関する次の文章を読んで、立体を描き、その立体を用いた空間を構成せよ。立体と空間は、
＜手順 1＞＜手順 2＞の指示に従って、デッサンボードの画面を適宜分割して描け。問題に明記された内容以
外のことは、自由に設定してよい。

(「文章」は、本学事務局にて閲覧できます。)

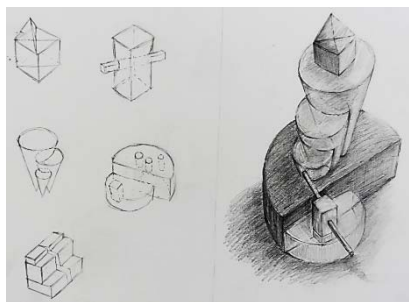
(東浩紀『一般意志 2.0』, 講談社, 2011 年 より一部改変)

＜手順 1＞上記の「集合知」に関する文章を念頭においた立体を 5 案以上描け。

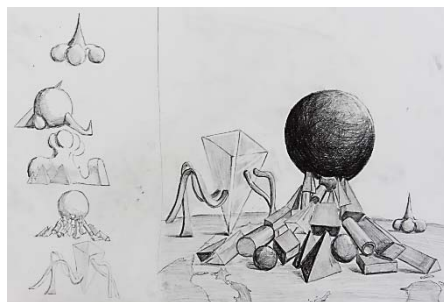
＜手順 2＞手順 1 で描いた立体の中からいくつかを選び、下線部の内容から想像される空間を構成せよ。

解答例:

A



B



理解力: 立体案の数や、そのいくつかを用いた空間の構成など、問題の指示内容が守られています(A, B)。

構想力: 多様な立体の組み合わせからなる空間(A)や、様々な個の集合で立体を支持している構成(B)など、
設問から想像した空間構成の意図が、明確に表されています。

創造性: 手順 1 において、近い形のものを、大きさを変えて組み合わせるなど、設問を念頭においた立体が案
出されており、手順 2 でそれらを集合することで、多様性と一体感が生み出されています(A)。

構成力: 大きな 1 つの球を、小さな立体群が持ち上げている構成により、力強さと緻密さが際立つ空間構成とな
っています(B)。

表現力: 構成する要素にあわせて透明感や量感を変えています。また、陰影等の表現も優れています(A, B)。
上記の「構想力」に挙げた空間構成の意図がわかるように、全体の構成を俯瞰した視点(A)や、支
えている様子を見上げた視点(B)が設定されており、迫力のある表現となっています。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 30 年度一般選抜(後期)試験

【問題】以下の各手順にしたがって、デッサンボードに表現せよ。その際、手順 1、手順 2 は、デッサンボードの画面を適宜、分割して描け。手順 3 は、デッサンボードの任意の位置に記せ。問題に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。

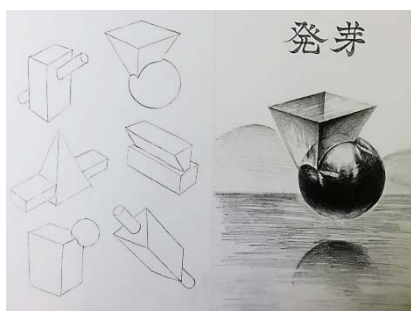
＜手順 1＞ 下記の 5 種類の立体から 2 種類を選び、その 2 種類の立体を組み合わせて、新しい立体を構想せよ。そのようにして、5 つ以上の新しい立体を構想し、デッサンボードに描け。直方体 四角錐 三角柱 円柱 球 【手順 1 の留意点】立体の組み合わせ方を工夫すること。手順 1 では質感や陰影の表現は評価しない。

＜手順 2＞ 手順 1 で作成した新しい立体から 1 つを選び、ある湖の水面上の空中に浮かんだ姿を想像せよ。立体の下端から水面までの距離は 1m とする。その立体の全景を、その湖とともにデッサンボードに表現せよ。立体の材質を具体的に設定し、表現すること。 【手順 2 の留意点】新しい立体を表現するのにふさわしい視点や構図をよく考えること。手順 2 では質感や陰影を表現すること。

＜手順 3＞ 手順 2 の空間の構成の意図を表すタイトルを考案し、デッサンボードの任意の位置に明記せよ。 【手順 3 の留意点】タイトルの字数、配置をよく考えること。

解答例:

A



B



理解力: 立体の種類や数、風景との組み合わせ、タイトルなど、問題の指示内容が守られています(A, B)。

構想力: 明確な考えにもとづく立体の組み合わせが、6 つ示されています(A)。2 種類の立体の組み合わせにより、タイトルに示されている意図が、明確に表されています(A, B)。

創造性: 四角錐を逆さにして、球に突き刺すという組み合わせ方に、創意工夫が認められます(A)。

構成力: 直方体を球が支える構成(B)や、球から四角錐が放出するような構成(A)など、2 つの立体を対置することで、明快な空間構成となっています。遠景や、湖面にうつりこむ様子も描かれています(A, B)。タイトルの配置や大きさを検討しましょう(A, B)。

表現力: 球の質感と、もう 1 つの立体の透明感とを対比して描くなど、双方とも陰影や質感の表現に優れています(A, B)。立体を見上げるような視点で描かれており、迫力のある表現となっています(B)。

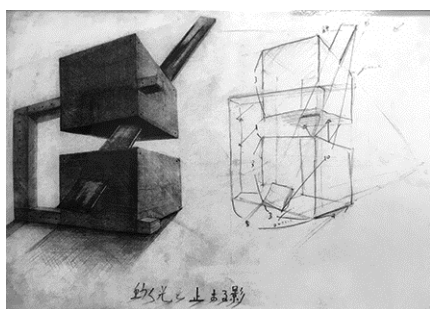
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 29 年度一般選抜(後期)試験

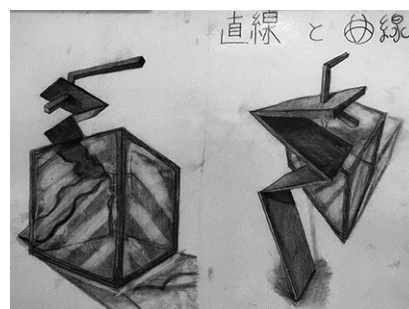
【問題】以下の手順にしたがって、デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1. 次に述べる空間を構想せよ。まず、下記の3種類の立体があると想定せよ。これら3種類の立体を組み合わせて、「静と動^{せいどう}」という言葉から想起される空間を、デッサンボードの半分の画面に下書きスケッチをすることで構成せよ。長さ10,000mm、幅1,000mm、厚さ100mmの直方体、長さ5,000mm、幅300mm、厚さ300mmの直方体、1辺の長さが3,000mmの立方体 2. 手順1で構成した空間の全景を、デッサンボードの残り半分の画面に表現せよ。 3. 空間の構成の意図を表すタイトルを考案し、手順2で空間の全景を表現した画面のどこかに表現せよ。タイトルの字体、字数、配置は自由とする。

＜留意点＞a. 立体の組み合わせ方を工夫すること。 b. 視点や構図をよく考えてデッサンボードに描くこと。 c. 陰影や質感を表現すること(手順2)。 d. タイトルについても、その表現や配置をよく考えること(手順3)。 e. 下書きのスケッチも含むデッサンボードに表現された全てのものを評価の対象とする。 f. 上記の手順に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。



解答例: A



B

理解力: 手順1の下書きスケッチがなく、問題の指示内容が守られていません(B)。

構想力: 板状や棒状の直方体で「動」を、立方体で「静」を表現し、双方を対比させるという明確な意図が表れています(A, B)。その意図が下書きスケッチにも見られます(A)。

創造性: 板状や棒状の直方体を折り曲げて、動的な表現を強める創意工夫が認められます(B)。

構成力: 2つの立方体を斜めの直方体が貫通するというダイナミックな空間構成となっています(A)。ボリューム感のある立方体に対して、板状と棒状の直方体の組み合わせが対置され、異質な形態の対照が際立つ構成となっています(B)。

表現力: 立体の量感(A)や透明感(B)をはじめ、双方とも陰影や質感の表現に優れています(A, B)。空間を見上げるような視点で描かれており、迫力のある表現となっています(A, B)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 28 年度一般選抜(後期)試験

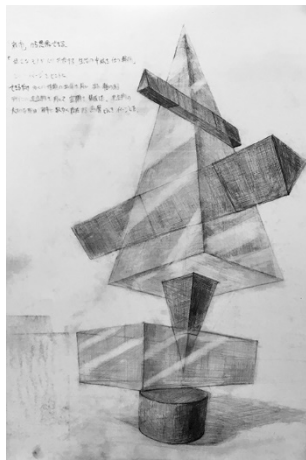
【問題】以下の手順にしたがって、「都市」をテーマとする空間を構成し、デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1. 下記の 5 種類の立体があると想定せよ。これらのうち、2 種類以上の立体を組み合わせて空間を構成せよ。直方体 四角錐 三角柱 円柱 球 2. 手順1で構成した空間の全景を、デッサンボードに表現せよ。 3. 「都市」というテーマをどのように表現したのかについて説明する文章を、デッサンボードに表現せよ。

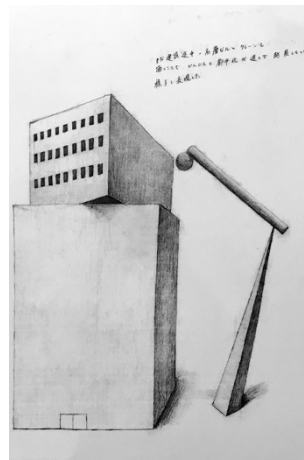
＜留意点＞a. 立体の組み合わせ方を工夫すること。 b. 陰影や質感を表現すること。 c. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。 d. 説明する文章の配置をよく考えること。 e. 上記の手順に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。

解答例:

A



B



理解力: 立体の形や種数, 説明文の表現など, 問題の指示内容がほぼ守られています(A, B)。

構想力: 様々なものや人が共存する生活の中核を様々な種類の立体の組み合わせで表現する(A), 都市化が進む様子を高層ビルとクレーンのような立体で表現する(B), という明確な意図が表れています。

創造性: 高層ビルを1つの立体でなく複数の立体の積み重ねで表現するという創意工夫が認められます(A)。

構成力: 垂直性と水平性を強く意識させる形の立体が用いられダイナミックな空間構成となっています(A)。左側には量感のある直方体が、右側には繊細な線状の立体と小さな球体が配置され、異質な形態の対照が際立つ構成となっています(B)。

表現力: 立体の透明感(A)や直方体の量感(B)をはじめ、双方とも陰影や質感の表現に優れています(A, B)。空間を下から見上げるようにすると、さらに迫力のある表現となるでしょう(B)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 27 年度一般選抜(後期)試験

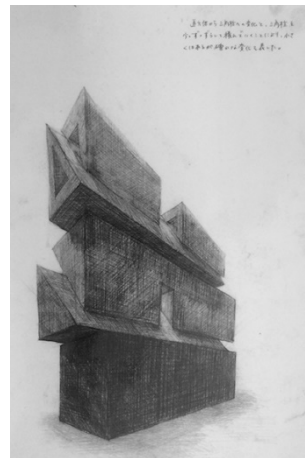
【問題】以下の手順にしたがって立体を考案し、デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1. 「変化」をテーマとする立体を考案せよ。ただし、立体の高さは地面から 10m を超えないものとする。
2. 地面上に立つあなたの視点から見えるこの立体の全景を、デッサンボードに表現せよ。3. 「変化」というテーマをどのように表したのか、この立体の創作意図を 100 字以内で考え、説明文としてデッサンボードに表現せよ。

＜留意点＞a. 立体の形を工夫すること。b. 陰影や質感を表現すること。c. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。d. 説明文の配置をよく考えること。e. 上記の手順に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。



A



B

解答例:

理解力: 立体の高さ, 視点の位置, 説明文の表現など, 問題の指示内容がほぼ守られています(A, B)。

構想力: 失敗を糧に成長する人生を様々な形の要素の積み重ねで表現する(A), 直方体や三角柱の形を少しずつ変えながら上に積む(B), という明確な意図が表れています。

創造性: 様々な形の要素を組み合わせで 1 つの立体をつくるという創意工夫が認められます(A)。

構成力: 不安定に見える要素の組み合わせ方によりダイナミックな空間構成となっています(A)。横長の三角柱に対し, 壁面が縦方向に貫通しているかのように構成し, 垂直性と水平性を同時に表現しています(B)。

表現力: 陰影や質感の表現に優れており, 視点の設定にも空間を見上げるようにという工夫が認められます(A, B)。

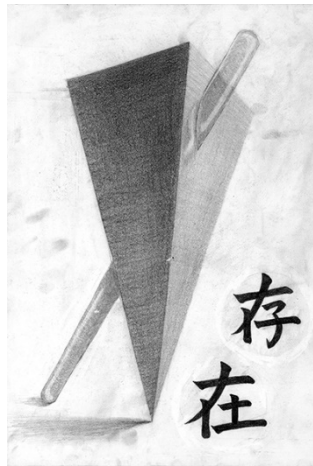
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 26 年度一般選抜(後期)試験

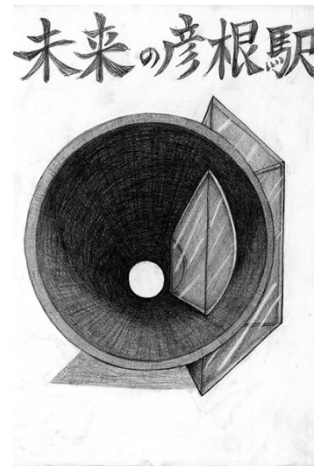
【問題】以下の手順にしたがって空間を構成し、デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1. 下記の 5 種類の立体が 1 つずつあると想定せよ。これらの立体のうち、いずれか 2 つを組み合わせて、地面上に空間を構成せよ。ただし、空間を構成する立体の最高部が、地面から 5m の高さをこえないようにすること。円柱 球 四角錐 直方体 三角柱 2. 地面上に立つあなたの視点から見えるこの空間の全景を、デッサンボードに表現せよ。ただし、空間のある地面と、あなたのいる地面は、同一の平面とし、高低差はないものとする。3. 空間の構成の意図を表すタイトルを考案し、デッサンボードに表現せよ。タイトルの字体、字数、配置は自由とする。

＜留意点＞a. 立体の組み合わせ方を工夫すること。b. 陰影や質感を表現すること。c. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。d. タイトルの表現や配置をよく考えること。e. 上記の手順に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。



A



B

解答例:

理解力: 立体の数や種類、空間の高さ、視点の位置など、問題の指示内容が守られています(A, B)。

構想力: 2 個の立体の組み合わせ方に明確な意図が認められます(A, B)。構成された空間とタイトルとの対応関係が明確です(B)。

創造性: 2 つの異質な立体を相互に貫入させるという創意工夫が認められます(A, B)。

構成力: 逆さまの四角錐と斜めの円柱によりダイナミックな空間構成となっています(A)。中が空洞の円柱により奥行き感のある空間構成となっています(B)。

表現力: 陰影や質感の表現に優れています(A, B)。空間を見上げる(A)、あるいは空間をのぞき込む(B)といったように、視点の設定にも工夫が認められ、迫力のある表現となっています。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 25 年度一般選抜(後期)試験

【問題】以下の手順にしたがって立体および空間の構成を想定し、デッサンボードに表現せよ。

＜手順＞1. 下図 a, b に示す形状を断面とする立体を、それぞれ 1 個ずつ想定せよ。ただし、図に示されていない寸法は自由に設定してよい。2. これら 2 個の立体を組み合わせて、地面の上に空間を構成せよ。3. 地面上に立つあなたの視点から見えるその空間の全景を、デッサンボードに表現せよ。ただし、空間のある地面と、あなたのいる地面は、同一の平面とし、高低差はないものとする。

＜留意点＞ イ. 図 a, b に示されていない寸法の設定や、立体の組み合わせ方を工夫すること。ロ. 陰影や質感を表現すること。ハ. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。ニ. デッサン用ボードは縦・横いずれの向きに描いてもよい。

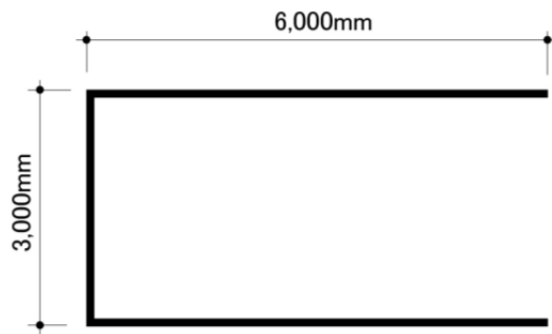


図 a

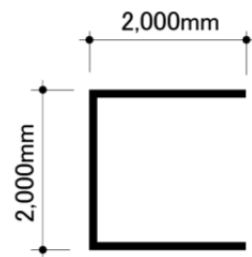
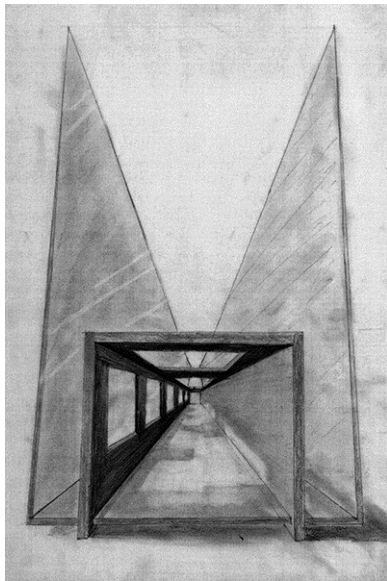
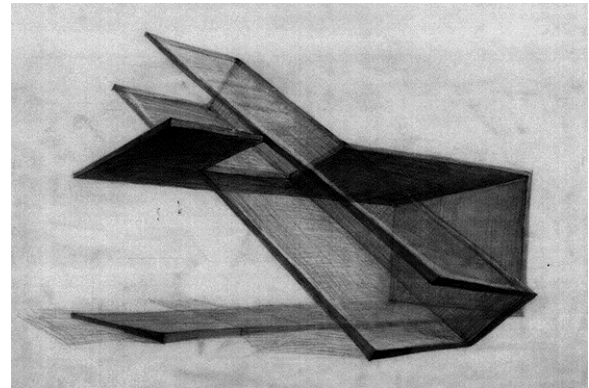


図 b



解答例: A



B

理解力: 立体の断面形, 組み合わせ方, 視点の位置など, 問題の指示内容が守られています(A, B)。

構想力: 2 個の立体の組み合わせ方に明確な意図が認められます(A, B)。

創造性: 内側の立体の天井と側面に開口を設ける(A), 大きな立体に欠き込みをつくって, 小さな立体を組み合わせる(B)といった創意工夫を認めます。

構成力: 奥に長い形の組み合わせ(A), 水平と斜めの形の組み合わせ(B)により, ダイナミックな空間構成となっています。

表現力: 陰影や質感の表現に優れています(A, B)。奥行き感がよく表現されています(A)。立体を建物の一部に見立てて下から見上げるようにすると, さらに迫力のある表現となるでしょう(B)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 24 年度一般選抜(後期)試験

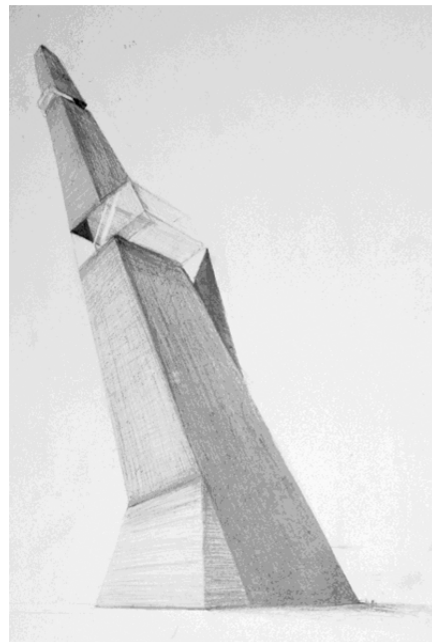
【問題】高さが 500m の 1 本の塔を想定し、以下の手順にしたがって、デッサンボードに表現しなさい。

＜手順＞ 1. 下記の 5 種類の立体のうち 2 種類を組み合わせて、高さ 500m の塔の形を想定しなさい。同じ種類の立体はいくつ用いてもよい。立体の寸法および材質の設定は自由とする。

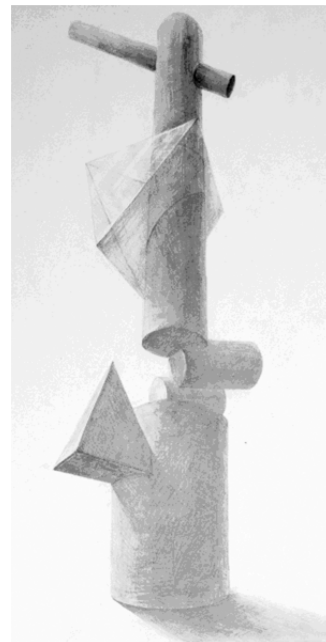
円柱、球、四角錐、直方体、三角柱

2. あなたは、その塔より水平に離れた地面上の地点にいるとする。塔のある地面と、あなたのいる地面は、同一の平面とし、高低差はないものとする。あなたの視点から見える塔の全景を、デッサンボードに表現しなさい。塔が地面に接しているように描くこと。

＜留意点＞ a. 立体の寸法や組み合わせ方を工夫すること。 b. 陰影や質感を表現すること。 c. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。 d. デッサン用ボードは縦・横いずれの向きに描いてもよい。



解答例: A



B

双方とも指示内容が守られており、理解力に問題は認められません。また、四角錐や円柱を基幹として直方体や三角柱を絡ませるという明確なアイディアから構想力の高さが認められます。

A は、高さや向きの異なる 2 つの四角錐を組み合わせて塔とし、展望所を連想させる 2 つの透明な直方体を上方に配置しています。四角錐の傾きが塔の高さを表現し、直方体のずれがダイナミックな感覚を強めています。四角錐の先端や途中を切ったり直方体の角と合わせたりするなど形へのこだわりも認められ、創造性、構成力、表現力が極めて高いと判断されます。

B は、長さの異なる円柱を縦横にして組み合わせることで、塔の形に変化を生み出しています。三角柱も大きさ、向き、質感の異なるものを用いることで変化を強めています。逆光を想定し陰影を強めることで塔の量感を表現しており、創造性、構成力、表現力が高い解答であると判断されます。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

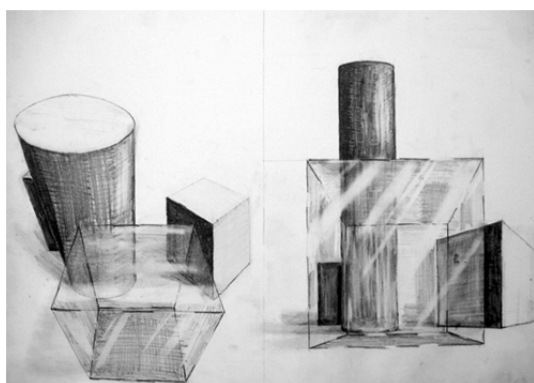
平成 23 年度一般選抜(後期)試験

【問題】1 辺の長さが 9,000mm の立方体が 3 つある。そこに、あなたの好きな形の立体を 1 つ追加しなさい。それら 4 つの立体を、地面の上に配置して空間を構成することを想定しなさい。まず、4 つの立体の全景を空中から見た様子を、デッサンボードの半分のスペースで表現しなさい。次に、地面上にいるあなたの視点から、この空間の様子を、デッサンボードの残り半分のスペースで表現しなさい。

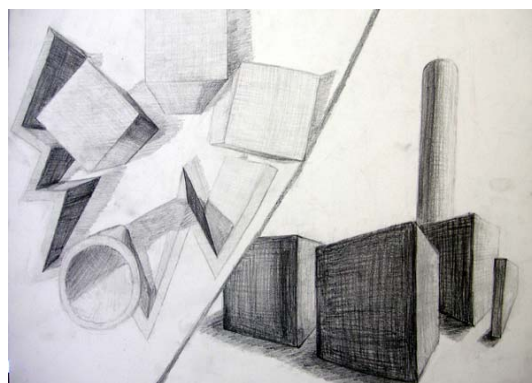
条件 1) 追加する立体の形や材質、および、立方体の材質は自由に設定してよい。2) 4 つの立体が地面に接するように配置すること。3) 4 つの立体がお互いに接したり、貫入したりしないように配置すること。4) 立体の置かれる地面と、あなたのいる地面は、同一の平面とし、高低差はないものとする。5) デッサン用ボードは縦・横いずれの向きに描いてもよい。

留意点 a) 追加する立体の形や、4 つの立体の配置を工夫すること。b) 陰影や質感を表現すること。c) 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。

解答例: A



B



理解力: 問題の指示内容が守られています(A, B)。ただし地面上の視点が高すぎます(B)。

構想力: 手前の立方体を透明にして後が透けて見えるようにする(A)、立体で囲みをつくる(B)という明確なアイデアが認められます。(B)の場合、一見 2 つの立体を追加しているようですが、ジグザグの壁と円柱はひとつながりで 1 つの立体をなしています。したがって問題の指示内容に反していません。

創造性: 立方体群との間に囲みをつくるため、ジグザグな形の壁を用いた点に創造性を認めます(B)。

構成力: 地面上に置かれた立方体群に、垂直性の強い 1 本の円柱を対比させ、ダイナミックな空間を構成しています(A, B)。

表現力: 全景の俯瞰も遠近感が表現され迫力があります。また、透明感や陰影の表現が秀逸です(A, B)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 22 年度一般選抜(後期)試験

【問題】

以下の 3 つの立体を組みあわせて地面に配置することを想定し、その様子をデッサンボードに表現しなさい。

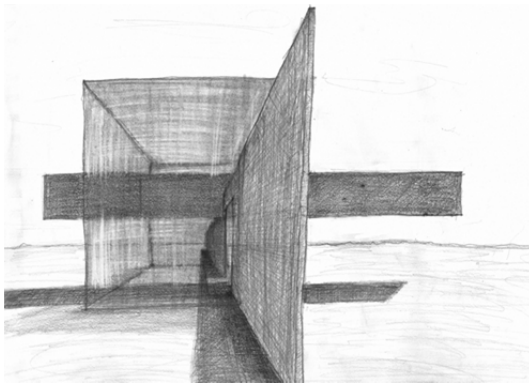
- ・1 辺の長さが 3,000mm の立方体(全面がガラスで内部は空洞, ガラスの厚さは自由)
- ・長さ 10,000mm, 幅 2,000mm, 厚さ 100mm の板状の立体(材質の設定は自由)
- ・長さ 10,000mm, 幅 1,000mm, 厚さ 100mm の板状の立体(材質の設定は自由)

デッサンボードは縦・横いずれの向きに描いてもよい。

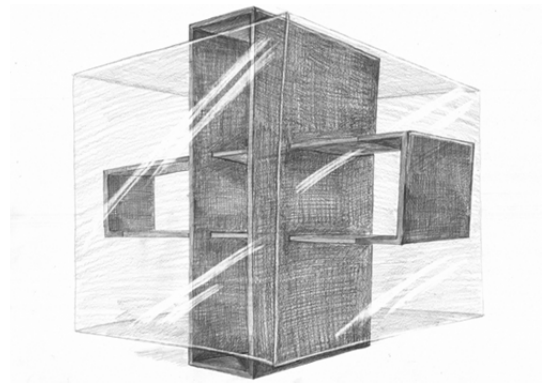
条件 1. 立体に切り込みを入れたり, 他の立体に貫入させたりしてもよい。2. 視点の設定は自由とする。3. 全景を描く必要はないが, 3 つの立体の存在がわかるように描くこと。

留意点 a. 立体の組み合わせ方や配置を工夫すること。b. 視点をよく考えてデッサンボードに描くこと。c. 陰影や質感を表現すること。

解答例: A



B



理解力: 立体の寸法や構成のしかたなど, 問題の指示内容が守られています(A, B)。

構想力: 透明な立方体をガラスの部屋(A)やショーケース(B)という具体的な空間に見立てる明確なアイデアが認められます。

創造性: 板状の部材を折り曲げて立方体を支えるという発想に創造性を認めます(B)。

構成力: 2 枚の部材を直交させダイナミックな空間を構成しています(A)。視線方向の部材を右側に寄せたことも効果的です。

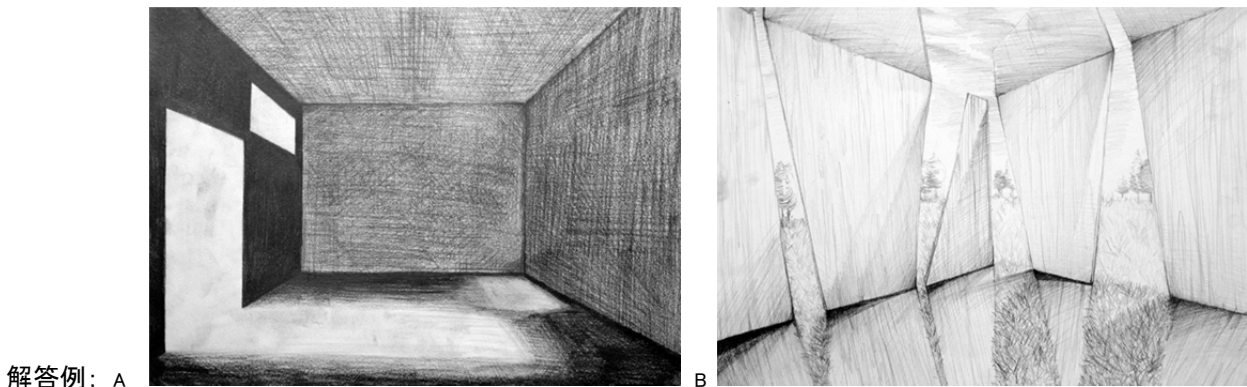
表現力: 地面に立つ人の目線で表現しているため, 臨場感があります(A, B)。奥行のある陰影表現となっていますが, 部材によって光線の角度がやや違います(A)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 21 年度一般選抜(後期)試験

【問題】

1 辺が 3m の立方体がある。この立方体は、厚さ 10cm の平らな板(平板)6 枚で構成されており、立方体の内部は空洞である。まず、立方体を構成する平板に穴を 2 ヶ所設けることを想定しなさい。そのうち 1 ヶ所については、この立方体の内部に対する人の出入りを考慮すること。その上で、この立方体の内部に視点を 1 ヶ所設定し、その視点から見える空間をデッサンボードに表現しなさい。穴は 2 ヶ所とも描くこと。なお、穴の形や平板の素材は自由に想定してよい。陰影による奥行きを感じさせる描写を工夫すること。



解答例: A

B

理解力: 立方体内部の高さと幅は等しいはずですが、2 例ともそうなっていません。問題の指示内容を守るように気をつけましょう。

構想力: 切り取った穴をとおして外部をみせるという明確なアイデアが認められます(B)。

創造性: 穴の大胆な形に創造性を認めます(B)。穴どうし見えない部分でつながっているのではと、観る者に想像させる工夫でもあります。

構成力: 縦長と横長の穴を非対象に組み合わせた、力強い構成となっています(A)。

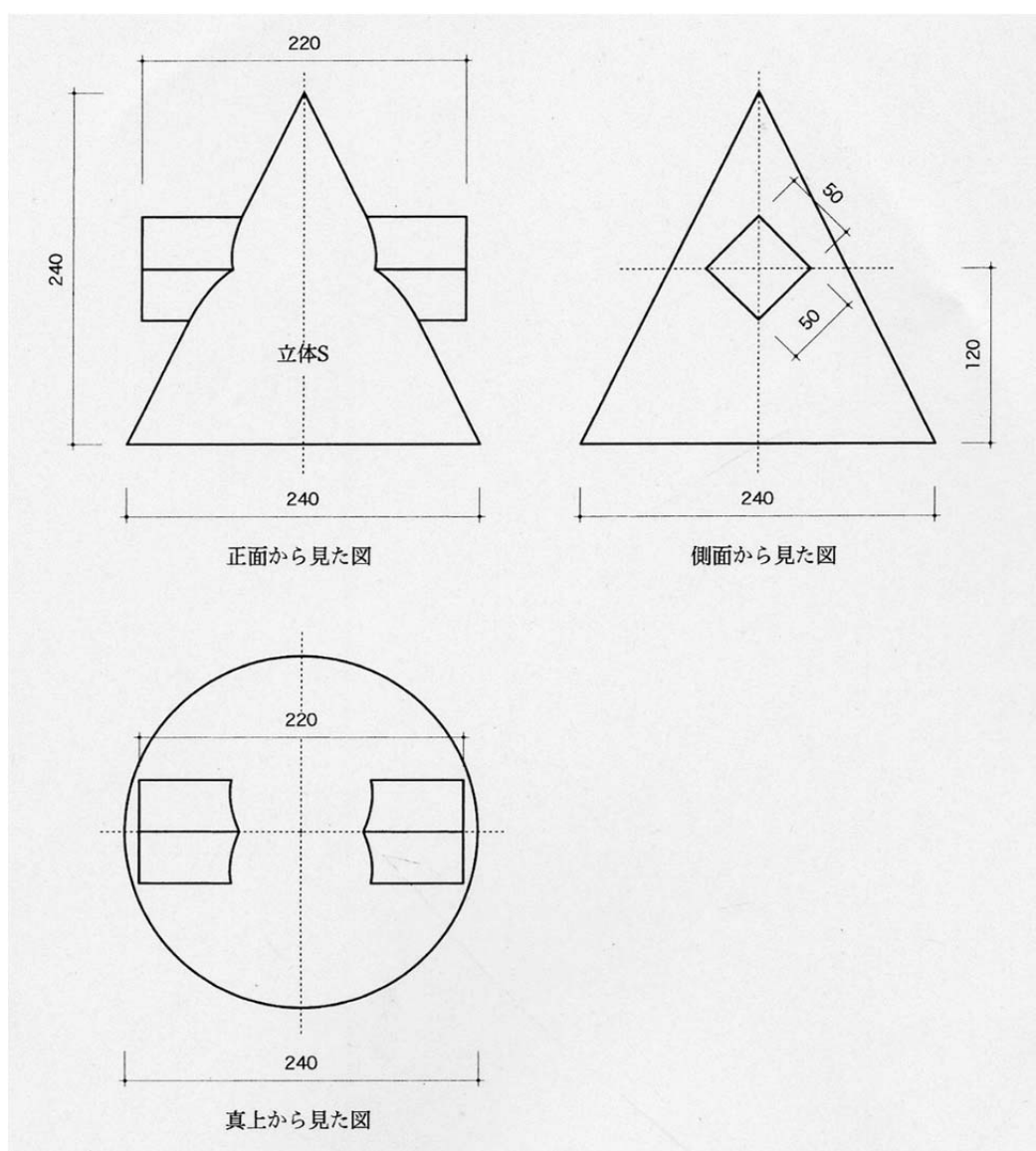
表現力: 穴から見える外の明るさと、穴のある壁の暗さとの対比がよく表現されています(A)。外を明るくしすぎて壁の厚みが見えなくなってしまうことが惜しまれます。鉛筆の筆跡が繊細で、陰影が美しく表現されています(B)。光の方向を考えると、右側の壁はもう少し暗くてもよいでしょう。

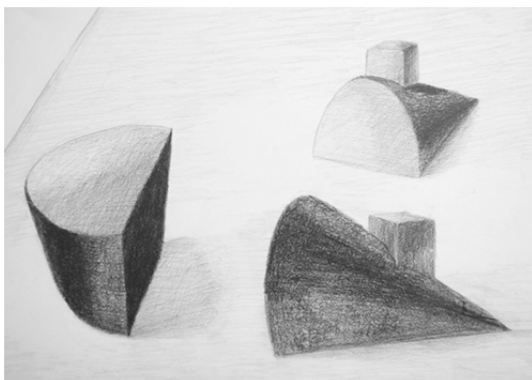
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 20 年度一般選抜(後期)試験

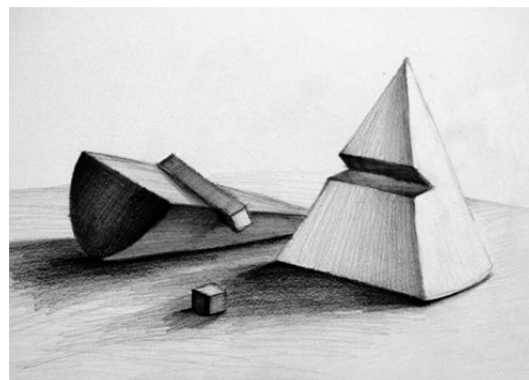
【問題】下図のとおり立体 S が、900mm 四方の平滑なテーブル上に置かれているものとする。この立体 S を自由に 3 つの立体に分解あるいは切断し、更にそれらをテーブル上からはみ出さないように配置のしかたに工夫して置き、その様子を任意の視点からスケッチしなさい。その際、一方向から平行光があたっているものとし、その陰影や配置による奥行きを感じさせる描写を工夫すること。※下図中の寸法の単位は mm(ミリメートル)である。

補足説明: 立体 S とは、「直径 240mm の円を底面とした高さ 240mm の円錐」と、「50mm 四方の正方形を断面にもつ長さ 220mm の直方体」が組み合わさってできた立体である。





解答例: A



B

理解力: ほぼ問題の指示内容のとおり解答となっています。

構想力: 3つの立体の配置のし方に明確なアイディアは認められません(A)。

配置した結果として, 3立体の間にどのような空間をつくりだせるか検討しましょう。

創造性: 立体Sが円錐と直方体の組み合わせであることに注目しましょう。円錐の2分割に直方体を組み合わせさらに小さな立方体を取りわけるといふ工夫が見られます(B)。

構成力: 3つの立体で囲まれた空間を構成しています(A)。分割した円錐の1つを不安定に置き, 立方体を少し離して置くことで, 緊張感のある構成としています(B)。

表現力: 奥の立体と手前左の立体は, 手前右の立体を分割したものと同じはずですが, そのようになっています(A)。分割した立体の寸法を確認しましょう。基本的な立体を, 2次元で表現する練習をしましょう。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集

平成 19 年度一般選抜(後期)試験

【問題】あなたが今までに訪れた場所の中で、印象に残っている風景をひとつ想起しなさい。その風景の中に、縦 10cm、横 10cm の正方形の断面をもつ長さ 3m の棒状の部材を加えて、新たな風景を創り出しなさい。その上で、あなたの創り出した風景を、デッサン用ボードに描きなさい。

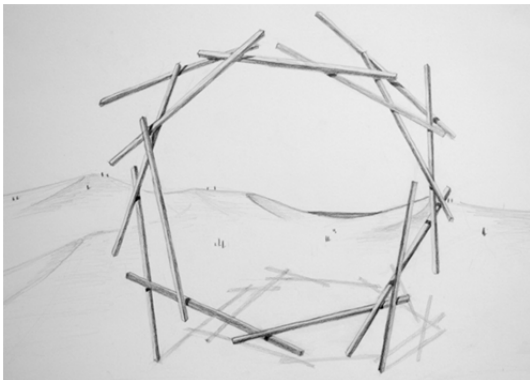
条件

1. 部材は何本用いてもよいが、切断してはいけない。
2. 部材の質感は自由に表現しなさい。
3. デッサン用ボードの縦、横は自由とする。

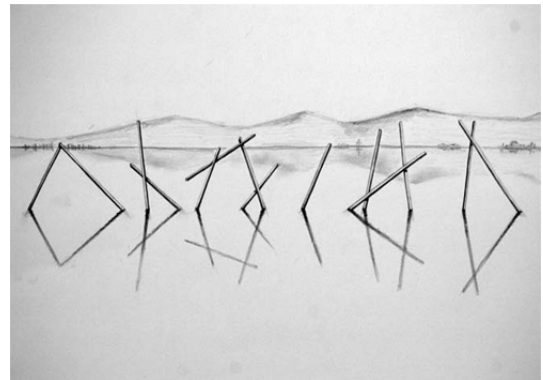
留意点

1. 部材の質感表現や風景の描写が優れていること。
2. 部材の組み合わせ方に創意工夫し、その場所の風景とバランスのとれた構成にして描写すること。

解答例: A



B



理解力: 部材の大きさや形、風景との組み合わせ方から、問題の指示内容どおりであることがわかります(A,B)。

この問題では部材が太すぎたり短すぎたり等、指示どおりに描かれていない解答がみられました。

構想力: 部材で構成された枠をとおして砂丘を眺める(A)、湖面の部材と背景の山並みを組み合わせる(B)、という明確な考えにもとづいています。

創造性: 四角の額縁のような枠とせず円に近い枠としたところ、部材の端と端をつなぐのではなく交差させてつないだところに創意工夫が見られます(A)。

構成力: 部材の直線と地形の曲線(A)、部材のランダムな方向性と湖面の水平性(B)、という対比が見られます。

表現力: 風景に比べて部材を強く描き、背景と前景のバランスのとれた表現となっています(A,B)。この問題では風景を描きすぎて、主役の空間が弱くなってしまった解答がありました。部材が湖面にうつりこむ様子が表現されています(B)。